

平成 29 年度 第 1 回総合教育会議 摘録			
開会年月日	平成 29 年 10 月 13 日 (金曜日) 午後 3 時 分		
閉会年月日	平成 29 年 10 月 13 日 (金曜日) 午後 4 時 分		
開会場所	尾島庁舎 4階 大会議室		
協議事項			備考
(1) 義務教育学校について			
(2) その他			
出席者	構成員	【市長】 清水 聖義	
		【教育委員会】 澁澤 啓史 (教育長) 金田 克次 (教育長職務代理者) 高木 潔 (委員) 中島 利香 (委員) 板橋 明 (委員)	
出席者	事務局	【市長部局】 企画部長、企画部副部長 (人事課長)、 企画政策課長	書記・記録
		【教育部】 教育部長、副部長、市立太田高校担当副部長、 教育総務課長、学校施設管理課長、学校施設 管理課主幹、青少年課長、文化財課長、文化 財課主幹、歴史施設課長、学校教育課長、学 校教育課指導係長、学校教育課指導主幹、教 育総務課総務係長	
傍聴者	【一般】 12名 【報道機関】 3社		

教育総務課
担当職員 2 名

I 開会

II 市長あいさつ（要旨）

■前は不登校問題があったが、勤労青少年ホームを利活用して「ふれあい教室」を有効的に使ってもらいたい。

■今日は義務教育学校がテーマである。今後の学校そのものの体力、活力を維持していく上で、義務教育学校について教育委員の意見を聞きたい。

III 教育委員長あいさつ（要旨）

■教育会は様々な改革が行われており、30人程度学級の実現、不登校専門員の対応など、側面から支援いただき市長には感謝している。

■今日は義務教育学校について色々な角度からご意見をいただきたい

IV 協議事項

（1）義務教育学校について

平成28年4月1に学校教育法が改正され、小中一貫教育を行う新たな制度として「義務教育学校」が規定される。

また本件は、現東小、蕨川西小、北中の3校を集約した義務教育学校の設立を目指すものである。

〈市長〉

○義務教育学校の設立の目的は、学校規模というより学校に活力を戻したいということ。小規模は良いところもあるが、やはり一定規模校は大事である。

○子どもたちの活力、地域のコミュニティの構築、地域全体が統一感を持てる。

○デメリットは改善すれば良い。行政が最大限の対応をしたい。

〈板橋委員〉

○義務教育学校の目的は、学校の統廃合という意味ではなく、学校に活力を取り戻すということである。

○これからの太田市の教育にとって、これを1つのパイロット的な役割として考える。

○義務教育学校の開校にあたって、地域と学校現場とよく話し合い、理解を得ることが必要。

〈市長〉

○従前は蕨川地区と旧太田地区を分けるという考え方もあった。

○地区運動会と学校区の間でインバランス（不均衡）があり、東小のテーマは以前から挙がっていた。

〈中島委員〉

- 小中一貫校について、先進地の視察をした際、メリットを多く感じた。
- 9年間の6・3で分けるのではなく、4・3・2で分けて中一ギャップなどが解消されることが期待できる。
- 先進事例として県内の学校を引っ張って行ってほしい。

〈高木委員〉

- 太田市は人口が増えているとは言え、子どもの数が減少している。文科省も義務教育学校方式を推進しており、非常に良いことだ。
- 地域の人たちの反対も無い中で進められる手法で、安心して新しい学校への取り組みを応援してもらえよう予算付けをお願いしたい。

〈金田委員〉

- 全てに共通する、多くなれば分離、少くなれば統合という自然の流れである。
- 文科省の推進する新しいスタイルを活用することは非常に良い。
- 必ず作用があれば反作用があり、そういう点は改善をしていけば良い。
- 参考に群馬県教育委員会の考え方を聞きたい。

〈教育長〉

- 県内では初めてであり、県としても暗中模索の段階であるが、協力は惜しまないという言葉を使っている。
- 義務教育学校をどのような形で進めて行くのか皆さんの意見を伺いたい。

〈板橋委員〉

- 3つの学校を今の北中にしていく方針だと想像する。
- 北中の増改築、校庭、体育館などのハード面、地元への説明等、様々な課題があり、専門の組織（以下、「準備室」）が必要だと感じる。

〈市長〉

- 準備室への人的配置は対応する。
- 準備室は、開校したら終わりではなく、学校活力や維持向上のために常に研究・継続をしていく。
- 施設の整備、地域へ説明、県教委と調整、色々あり総合力が必要。
- 平成30年度施設の設計、31年度建設、33年4月に開校というイメージ。
- （市長の）任期中の開校を目指したい。
- 並行して第2弾をスタートさせる。第1弾で終わりではない。継続させていく。
- スクールバスはランダムに夜まで稼働し、部活動帰りの生徒に対応し、かつお年寄りにも利用してもらおう。

〈高木委員〉

○ハード面は、必要な施設（教室・体育館・プール等）の選別が必要。

〈金田委員〉

○既存施設を使うのか、新設するかよく吟味した方が良い。

〈市長〉

○給食室は新しくする必要がある。体育館も児童（小学生）が使えるように新しくした方が良い。

○東小が近いから、（中学生の）部活動は東小を使うと良い。

〈教育長〉

○市長の考えが、1つで終わらせない、継続的に実施して行くことが確認できたことは、教育委員会としてありがたい。

〈金田委員〉

○はっきりと、いつまでに開校という目標を明確に示しては。

〈市長〉

○平成33年4月開校を目指したい。

〈板橋委員〉

○リーフレットの的なものを用意し、しっかりPRをしていくことが大事。

○市長と議会の協力も必要である。

〈市長〉

○北中の学校区は今までも変わらず、東小と葦西小はお互いに追加だけ。

〈高木委員〉

○北中は非常にきれいな学校。昨年卒業式に出た際、塵一つ落ちていなかった。

〈市長〉

○同意

〈教育長〉

○教育委員会として、とてもいい意見交換が出来た。地域にメリット面をしっかりと説明しながら、平成33年度開校目標にし、脈々と準備を進めて行く。